

公益財団法人第五福竜丸平和協会

平成 30 年度事業計画

第五福竜丸展示館は、開館から42年、船体は建造71年を迎える。第五福竜丸平和協会は、展示館において貴重な木造船を現物をとおして広く伝えるとともに、原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの願いで保存展示が実現したことを踏まえた事業を広く都民・市民にむけてすすめる。

本年度は展示館建物の大規模な修理が計画され、7月から来年3月までの休館が予定される。展示館の休館中も、第五福竜丸・ビキニ事件を知らせ、訪問者への対応、来年以降の見学予約の受付、定期刊行物としての「福竜丸だより」の発行、第五福竜丸の被災と戦後の核開発・核被害などについて広く教育的活動にとりくみ、公益事業をすすめる。

公益財団法人事業のかなめの事業としての展示館業務

- ・開館日は308日。ただし展示館改修工事の日程が確定した段階で変更になる。
- ・学校見学・市民グループに対するガイド・解説、来館者に対する見学のサポートに取り組む。
- ・第五福竜丸の被災をはじめ、展示館の存在に関する広報・宣伝活動をいっそうすすめる。休館中の広報・宣伝にとりくむ。

企画展（展示替え）等の取り組み

- ・展示館の通常開館が4月から6月末となる予定なので、展示替えについては、休館中に作業をすすめ、平成31年の展示館改修終了後に設置し、リニューアルオープンにより見学者に公開する。展示替え企画の第一は、映像による展示3点を製作する。映像展示の画像には幾つかの言語によるテロップを挿入する。企画の第二は、常設展示の「第五福竜丸、水爆実験に遭遇」に関するコーナーについて新たなパネルを製作し展示する。

船体・エンジン等の保存のための検討作業

- ・船体等保存検討委員会において実施が合意された第五福竜丸船体の3D測定を平成29年12月に実施した。そのデータの解析作業をすすめるとともに、その結果に基づく今後の作業の検討をおこなう。エンジンの薬品塗布、現在の状況についての検討をすすめる。

展示館休館中の事業について

- ・第五福竜丸の歴史、戦後の核被害についての教育的な活動をすすめる。各地での写真パネル展の開催をよびかけ、第五福竜丸、マーシャル諸島の核被害、世界の核実験被害などのパネルの活用をすすめる。学芸員などによる出講授業や講演活動にとりくむ。

出版事業ほか

- ・展示館来館者に配布する「しおり」を新たな製作する（カラーA4版三折り日本語・英語）。
- ・「福竜丸だより」は、展示館と賛助者、市民を結ぶ重要なメディアであり、隔月ごとの定期発行をおこなう。「たより」の別冊として展示館と協会の年次報告を作成し配布する。
- ・「福竜丸だより」への山村茂雄氏（第五福竜丸平和協会顧問）の連載（40回）を基本にし、第五福竜丸保存のとりくみや文化的な活動、船にかかわられた人びとの記録について出版する。